

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 9月29日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-298524

出 願 人

Applicant(s):

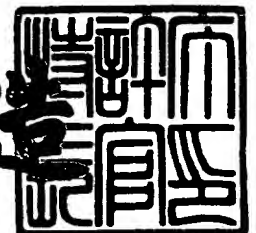
荻田 昌和

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年11月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 P0421KA01

【提出日】 平成12年 9月29日

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

 【住所又は居所】 岡山県赤磐郡赤坂町大屋 3 9 - 2

 【氏名】 荻田 昌和

【特許出願人】

 【住所又は居所】 岡山県赤磐郡赤坂町大屋 3 9 - 2

 【氏名又は名称】 荻田 昌和

【代理人】

 【識別番号】 100104581

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 宮崎 伊章

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 049456

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 体調調整具、及び、その製造方法並びに、その使用方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、

及び

(C) 形状保持材

とからなる体調調整具であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

ことを特徴とする体調調整具。

【請求項 2】

線材巻き付け磁石本数が4本以上である請求項1記載の体調調整具。

【請求項 3】

棒磁石が板磁石である請求1または2記載の体調調整具。

【請求項 4】

線材及び形状保持材が銅線である請求1乃至3のいずれかに記載の体調調整具

【請求項 5】

線材及び形状保持材が非磁性で且つ導電性を有する1本の連続した線材からなる請求項1乃至4いずれかに記載の体調調整具。

【請求項 6】

(A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、

及び

(C) 形状保持材

とからなり、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている
体調調整具の製造方法であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面に前記線材を右巻きに螺旋状に配し、

次いで、前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とを交互に隣接配置し、

更に、その外側に形状保持材を配したことを特徴とする
体調調整具の製造方法。

【請求項 7】

(A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、

及び

(C) 形状保持材

とからなり、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている
体調調整具の製造方法であって、

前記(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と前記(C) 形状保持材が、同一の非磁性で且つ導電性を有する連続した1本の線材を用いて、

n (複数) 本の棒磁石の内、1本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、該

磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

次いで、該線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 2 本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

次いで、2 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 3 本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

更に、3 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 4 本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

同様にして残りの磁石を前記線材で巻き付け、

次いで、n 本の線材巻き付け磁石が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とを交互に隣接配置させ、筒状組み立て体を作成し、

引き続き、n 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を用いて、前記筒状組み立て体の形状を保持するために該筒状組み立て体の外側を螺旋状に巻回することを特徴とする体調調整具の製造方法。

【請求項 8】

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、

及び

(C) 形状保持材

とからなり、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具を用いて、体調を調整する方法であつて、

前記筒状空間の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体

調調整具に方位磁石を近づけた際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体にあてることを特徴とする体調調整具の使用方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は体調調整、特に電磁波障害による体調不具合を調整することができる体調調整具、及び、その製造方法並びに該体調調整具の使用方法に関する。

【0002】

【従来技術】

最近、コンピュータ、携帯電話、電子レンジ等々の電子機器の普及がめざましく、これら電子機器から発生する電磁波の人体への影響が心配されている。

パソコンのブラウン管等から発生する電磁波を遮断するために電磁波遮断エプロン等が市販されているが、磁場はブラウン管画面から真っ直ぐ放射されているのではなく、放射源から楕円をいくつも描くようにして、上下から回り込んでくるので電磁波を遮断する効果が不十分である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、体調不具合を訴える人、特に、電子機器に囲まれ電磁波を浴びやすい環境の中で仕事をしている人で、体調不具合を訴える人に対して有効な体調調整具、及び、該体調調整具を製造する方法並びに該体調調整具の使用方法を提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため鋭意検討した結果、本請求項1の発明は、

(A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、

及び

(C) 形状保持材

とからなる体調調整具であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている
を特徴とする体調調整具である。

【 0 0 0 5 】

棒磁石の断面形状として、磁石同志の N 極と S 極とが隣接可能で前記筒状空間が形成可能であれば良く、長方形、正方形、円形、楕円形等が適していて、特に、前記筒状空間を形成する上で長方形が望ましい。

【 0 0 0 6 】

非磁性で且つ導電性を有する線材として、銅、アルミニウム、銀、金、プラチナ等が用いられる。

【 0 0 0 7 】

体調調整具の前記筒状空間としてその断面が円形、楕円形に限らず、略三角形乃至多角形の筒状空間も含む。

線材巻き付け磁石の本数が 3 本以下の場合は、体調調整具の前記筒状空間を形成するのが困難で、4 本以上が望ましい。

【 0 0 0 8 】

また、線材の螺旋巻きの方向は、左巻きの場合は効果がなく、右巻きとする。
その配置は、磁石の片端から他端までを、磁石表面を 1 本の線材で、1 層巻きで、隣り合う線材間の間隙を極力少なくするように、配されているのが望ましい。
なお、線材の太さは、1 mm 程度あれば良く、太さの上限は隣接する磁石同志の N 極と S 極とが良く吸引できるか否で判断され、吸引できない太さでは、該調整具の作成が困難で、その効果も得られない。

【 0 0 0 9 】

また、形状保持材としては、該体調調整具の前記筒状空間を維持して該体調調整具の形状を保持できれば材質は問わず、その形状は筒形、線状、テープ状のいずれでも良いが形状保持、及び効力増強性の点で、導電性を有する金属製の線材

が望ましい。前記導電性を有する金属製の線材として、銅、アルミニウム、銀、金、プラチナ等を用いる。なお、前記形状保持材として前記線材と同一の線材からなる 1 本の連続した線材で配する構造も本発明の体調調整具として含まれる。

【 0 0 1 0 】

本請求項 6 の発明は、該体調調整具を製造する方法の発明であって、

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、

及び

(C) 形状保持材

とからなり、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具の製造方法であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面に前記線材を右巻きに螺旋状に配し、

次いで、前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とを交互に隣接配置し、

更に、その外側に形状保持材を配する

ことにより体調調整具を製造する。

なお、本請求項 7 の発明は、該体調調整具を製造する方法の発明であって、前記形状保持材として前記線材と同一の線材からなる 1 本の連続した線材を使用した発明で、この場合、形状保持性が優れている。

【 0 0 1 1 】

本請求項 8 の発明は、

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、
及び

(C) 形状保持材
とからなり、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている
体調調整具を用いて、体調を調整する方法であつて、
前記筒状空間の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体にあてることによる体調調整具の使用方法である。

【0012】

人が電磁波を浴びることによって、体調不具合が生じる理由、は、次のように考えられる。

本来、人体の赤血球は、プラス、血管内壁もプラスに帯電しているのが正常な状態である。従って、赤血球は血管内壁をスムーズに流れ体調を維持するようになっている。

電磁波は、大気をプラスイオン化する。そして、大気中のプラスイオンが増加することによって、人の体内の電気系にプラスイオンを浸透させ、人体内のプラスイオンを増加させる。

その結果、血管の外壁に、電磁波がプラスイオンを送りつけ、血管の内壁が反転して、マイナスイオンに帯電する。これにより、プラスに帯電している赤血球の血管中での流れが阻害され、体調不具合が生じることとなる。

【0013】

【発明の実施の形態】

図に基づき本発明の体調調整具を説明する。図1は本発明に係る体調調整具1の概略斜視図、図2は同概略平面図、図3は同概略底面図である。

図中、2は板磁石、3は板磁石2の長さ方向Rに沿って、表側4がN極、裏側5がS極である板磁石2の長さ方向Rの一端Hから他端Tまで該磁石表面を非磁性で且つ導電性を有する銅製の線材であって、右巻きに螺旋状に巻き付けられている。前記巻き初め部の一端Hおよび巻き終わり部の他端Tは、共に該磁石の長さ方向の両端より若干長さ方向内側に入った箇所にある。

【0014】

前記線材巻き付け磁石6は9本を断面略三角形の筒状空間7を形成するようにN極面NとS極面Sとを交互に隣接配置させている。

前記のように配置させた構成物の外側に形状保持材として銅製線材8を配したものが本発明の体調調整具である。

【0015】

図4に基づき本発明の体調調整具の製造方法を説明する。図4(a)は本発明に係る体調調整具を構成する板磁石22で、その長さ方向に沿った表側44がN極、裏側55がS極である。図4(b)は前記板磁石22の表面を非磁性で且つ導電性を有する線材33で右巻きに螺旋状に巻き付けた線材巻き付け磁石である。

図1の体調調整具を製造するには、板磁石22を9本用意して、各板磁石について、図4(b)に示すように長さ方向Rに沿って、磁石22の表面を非磁性で且つ導電性を有する線材33で右巻きに螺旋状に巻き付けることによって、線材巻き付け磁石66を9本作成する。なお、前記板磁石22の表面を前記線材33で右巻きに螺旋状に巻き付けるとは、図4(b)に示すように、長さ方向Rに沿って、該磁石の長さ方向の上端側から反時計回りに該磁石の下端側に線材33を螺旋状に巻着付けることである。次いで、該線材巻き付け磁石66のN極とS極とを隣接させ、組み合わせる。その結果、図1、図2、図3に示すような断面概略三角形の筒状空間7を有する線材巻き付け磁石組立体(図示せず)ができる。該組立体は、そのままでは、外力を受けると形状が崩れて前記筒状空間が保持できなくなる。これを防ぐため前記組立体の外側を形状保持材で覆って体調調整具を完成する。形状保持材としては、該体調調整具の前記筒状空間を維持して該体調調整具の形状を保持できれば材質は問わず、その形状は筒形、線状、テ

ープ状のいずれでも良いが形状保持、及び効力増強性の点で、導電性を有する金属製の線材を通常、用いる。

【0016】

体調調整具を用いて、体調を調整する方法としては、次の方法を採用。

該体調調整具の前記筒状空間の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体にあてる。

身体への当て方は、その部位として頭上、後頭部、額、足の裏、脇、腕等々で、身体に直接接するように5分程度当てる。5分経過後も使用を継続することで、更に気持ちが良くなり、そのまま眠ってしまう場合もある。但し、N極方向を指すのが弱い側の先端を身体にあてても体調調整の効果は得られない。

【0017】

図5に、本発明に係る体調調整具の他の実施の形態を示す。但し、図5では、線材および形状保持材を省略して磁石のみの配置を示していて、図5(a)は板磁石9を10本、図5(b)は板磁石10を16本を用いた体調調整具の概略平面図である。なお、図5(a)、図5(b)の×部CZは、該体調調整具の前記筒状空間の中心点である。

【0018】

本発明に係る体調調整具の製造方法の他の実施の形態（請求項7の発明に相当）を図6（概略平面図）に基づき説明する。図6は、本発明に係る体調調整具の前記図5(a)に該当する。但し、図5(a)では、線材および形状保持材を省略しているが、図6では、示している。

すなわち、図6では、前記線材と前記形状保持材とは、同一の非磁性で且つ導電性を有する連続した1本の線材を使用している。但し、両者の配置位置を明確にするため、便宜上、前記線材を実線で、前記形状保持材を破線で示している。

図6において、111は体調調整具、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229は板状棒磁石、333は前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されている線材、888は前記形状保持材である。前述したように線材333と

形状保持材 8 8 8 とは、非磁性で且つ導電性を有する連続した 1 本の線材からなっている。

【 0 0 1 9 】

図 6 の体調調整具 1 1 1 を製造する場合、前記 2 2 0 ～ 2 2 9 の板状棒磁石 1 0 本の内、1 本目の板状棒磁石 2 2 0 の長さ方向の一端から他端まで、該磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 H は板状棒磁石 2 2 0 の表面を線材 3 3 3 が巻き付ける際の巻き初め部である。

次いで、該線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 2 本目の板状棒磁石 2 2 1 の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 a は板状棒磁石 2 2 0 から板状棒磁石 2 2 1 への移行部である。

次いで、2 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 3 本目の板状棒磁石 2 2 2 の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 b は板状棒磁石 2 2 1 から板状棒磁石 2 2 2 への移行部である。

更に、3 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 4 本目の板状棒磁石 2 2 3 の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 c は板状棒磁石 2 2 2 から板状棒磁石 2 2 3 への移行部である。

同様にして残りの棒磁石 2 2 4、2 2 5、2 2 6、2 2 7、2 2 8、2 2 9 を順に線材で巻き付け、

次いで、1 0 本の線材巻き付け磁石が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とを交互に隣接配置させ、筒状組み立て体を作成する。

【 0 0 2 0 】

なお、前記 1 本目の棒磁石の長さ方向の一端から他端まで、該磁石表面を線材

が右巻きで螺旋状になるように巻き付けた後、前記 2 本目の棒磁石に前記 1 本目の巻き終わり部分の線材を巻き付ける際は、次の点を配慮する。

すなわち、前記 1 本目の棒磁石と前記 2 本目の棒磁石とがお互いに磁力で引き合う面同志が隣接するとともに、前記 1 本目の棒磁石 2 2 0 と前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 との前記移行部 3 3 3 a の長さを配慮する。また、前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 に線材を巻き付ける際は、前記 1 本目の棒磁石 2 2 0 を隣接させると線材巻き付け操作が困難になるので、線材巻き付け操作に支障のないように前記 1 本目の棒磁石と 2 2 0 前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 の位置を離れた状態で、巻き付ける。例えば、前記 1 本目の棒磁石 2 2 0 と前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 を並列させず、直列に配置して線材巻き付けを行う。以下、残りの棒磁石 2 2 2, 2 2 3, 2 2 4, 2 2 5, 2 2 6, 2 2 7, 2 2 8, 2 2 9 に線材を順に巻き付ける際も同様の配慮をする。

【0 0 2 1】

次いで、前記筒状組み立て体の形状保持のため、前記筒状組み立て体の周囲に線材材 8 8 8 を螺旋状に巻き付ける場合、棒磁石 2 2 9 の線材巻き付け終了部 3 3 3 T を巻き付けスタート部とし、前記筒状組み立て体の周囲を螺旋状に、前記筒状組み立て体の長さ方向の一端から他短まで巻き付けることによって、本発明の体調調整具が完成する。

【0 0 2 2】

【実施例】

以下に、電子機器から発生する電磁波の影響と思われる症状のある人に対して、断面形状が 1 0 m m × 2 0 m m、長さ 6 0 m m で、その長さ方向に沿った表側が N 極、裏側が S 極の板磁石、線材が太さ 1. 2 m m の銅線、形態保持材が太さ 1. 2 m m の銅線を使用した図 1 の体調調整具で、その使用効果を観た。なお、図 1 の体調調整具の筒状空間 7 の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N 極方向を指すのが強いのは、図 3 に示す底面側で、この面を身体にあてた。

被験者 A の場合、

毎日、職場で、パソコンに囲まれ、本人もパソコンを使用している。この職場

でパソコンが使用されるようになって以来、体調不具合をきたし、最近では、微熱が続く状態であった。

体調調整具を頭の額寄りの部分と足の裏の土踏まずの部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約 5 分経過時点で、使用した部分に冷氣と安らぎを感じると共に微熱がなくなり体調が良くなった。

被験者 B の場合、

毎日、職場で、パソコンを使用している。以前から身体の片側の腎臓が腫れていて違和感になやまされていて、パソコンを使用するようになってから、更に肝臓にも重い感じを感じるようになっていた。

体調調整具を頭の額寄りの部分と足の裏の土踏まずの部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約 5 分経過時点で、使用した部分に冷氣と安らぎを感じると共に前記症状がほとんど出なくなった。

被験者 C の場合、

冷え性で、冷房に弱く、また、職場で、パソコンを使用している。

体調調整具を頭の額寄りの部分と足の裏の土踏まずの部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約 4 分経過時点で、体温が暖かくなるのを感じると共に身体がリラックスするのを感じた。

被験者 D の場合、

携帯電話とパソコンを使用している。左肩が常に、凝って困っていた。

体調調整具を左肩と右足の外側の踝付近の部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約 4 分経過時点で、前記症状が無くなった。

被験者 E の場合、

携帯電話とパソコンを使用している。目が疲れて困っていた。

体調調整具を目を閉じて、瞼の部分に当てた。その結果、使用後、約 4 分経過時点で、前記症状がほとんど感じられ無くなった。

被験者 F の場合、

脚立の上から転落して左肘を捻挫して肩にも痛みを感じていた。

体調調整具を患部に当てた。その結果、使用後、約 10 分経過時点で、患部付近が暖かくなるのを感じて、前記症状がほとんど感じられ無くなった。

【0023】

上記、被験者A、B、C、D、Eのケースについて、その後、以前の症状が再発した場合、本発明の体調調整具を使用することで、体調不具合が前記のように改善された。また、被験者Fのように、電磁波による体調不具合でない場合にも本発明の体調調整具の効果が認められることが分かった。

【0024】

本発明の体調調整具が体調不具合解消に対して、効果がある理由は、現段階では、次のように考えられる。

電磁波を浴びることによって、増加した人体内のプラスイオンを本発明の体調調整具を当てることによって、減らす作用が働き、その結果、電磁波を浴びることによって、血管の内壁が反転して、マイナスイオンに帯電していた血管内壁が本来の状態のプラスに帯電するようになり、その結果、赤血球は血管内壁をスムーズに流れ体調を回復するようになるからである。

【0025】

なお、本発明の体調調整具を使用する場合、自然環境に恵まれた場所、例えば、ログハウス等で用いるのが良い。電磁波の飛び交う場所、例えば、都会のビル街等での使用は、効果が希釈される。このような場合、貝殻等の自然物を素手で握って本発明の体調調整具を使用することで、効力が増すことができる。

【0026】

【発明の効果】

以上の通り、本発明は、体調調整、特に電磁波障害による体調不具合を改善する体調調整具（電磁波を浴びることによって、増加した人体内のプラスイオンを減らすことにより体調を調整する調整具）を提供するとともに、その製造方法並びに、その使用方法を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る体調調整具の一実施形態を示す概略斜視図である。

【図2】図1の体調調整具の概略平面図である。

【図3】図1の体調調整具の概略底面図である。

【図4】（a）本発明に係る体調調整具を構成する板磁石の概略斜視図である

(b) 本発明に係る体調調整具を構成する線材巻き付け磁石の概略斜視図である。

【図 5】 (a) 本発明に係る体調調整具（線材および形状保持材を省略）の他の例を示す概略平面図である。

(b) 本発明に係る体調調整具（線材および形状保持材を省略）の他の例を示す概略平面図である。

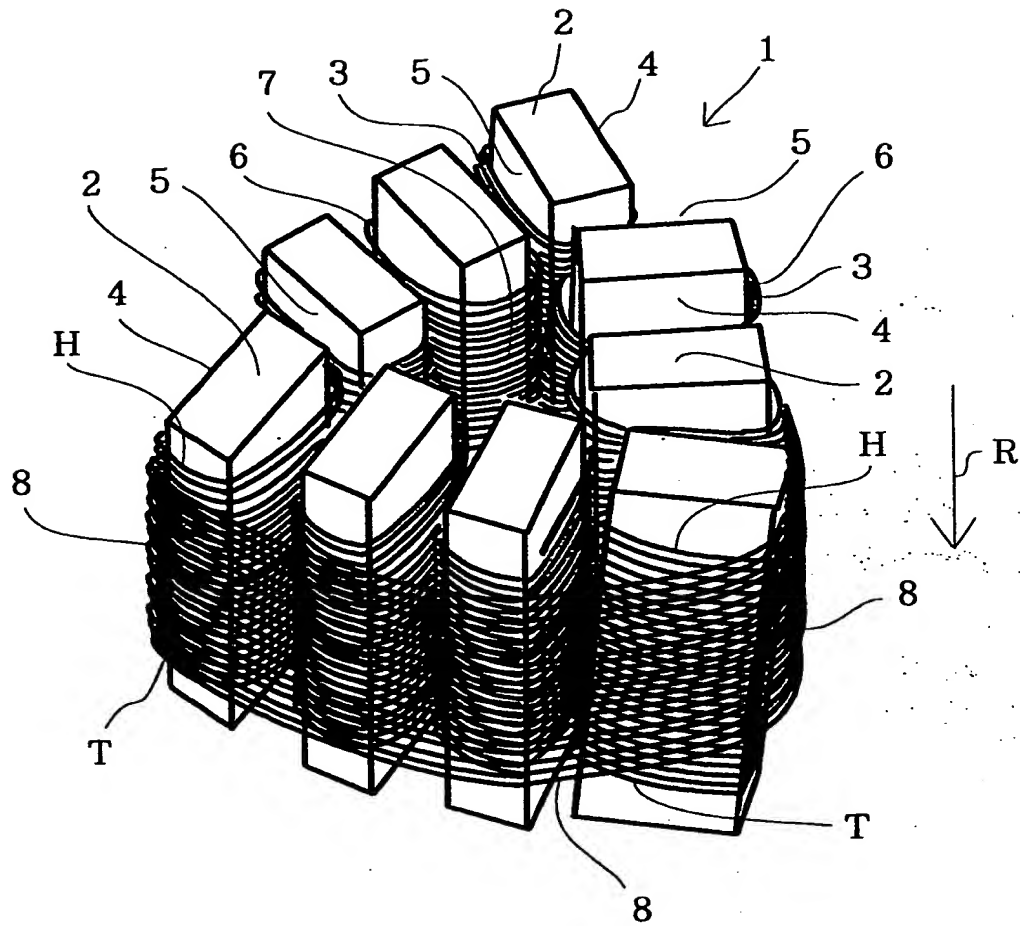
【図 6】 本発明に係る体調調整具の製造方法の概要を説明するための該体調調整具の概略平面図である。

【符号の説明】

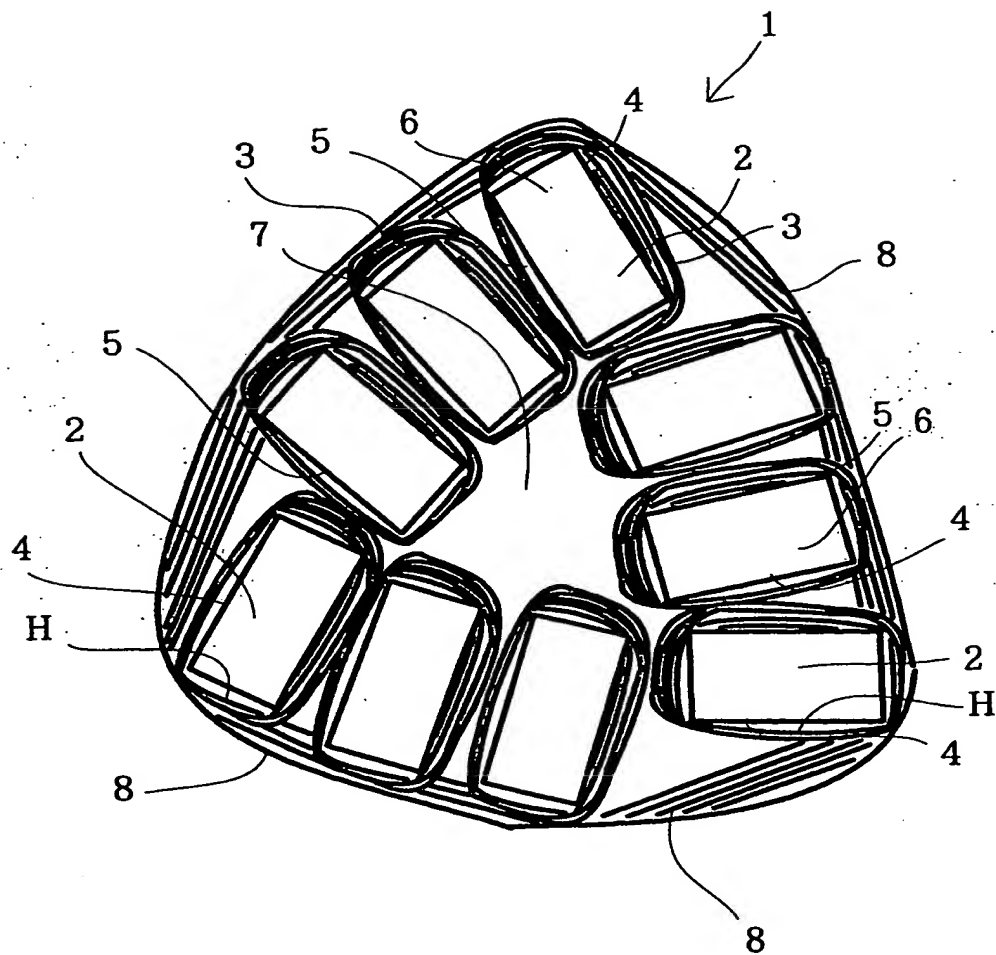
1	体調調整具
2	板磁石
3	線材
4	板磁石の表側
5	板磁石の裏側
6	線材巻き付け磁石
7	筒状空間
8	形状保持材
66	線材巻き付け磁石
CZ	筒状空間の中心点

【書類名】 図面

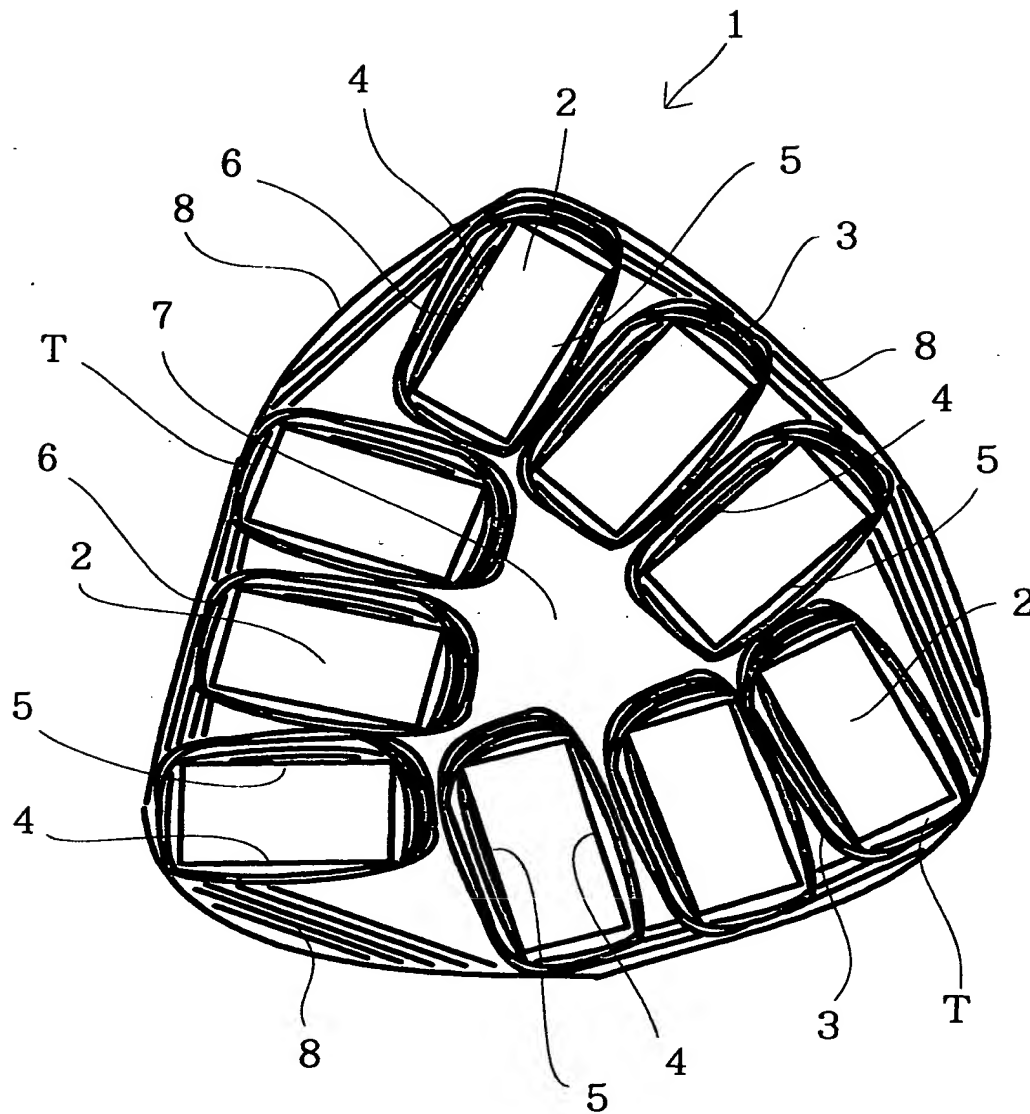
【図 1】



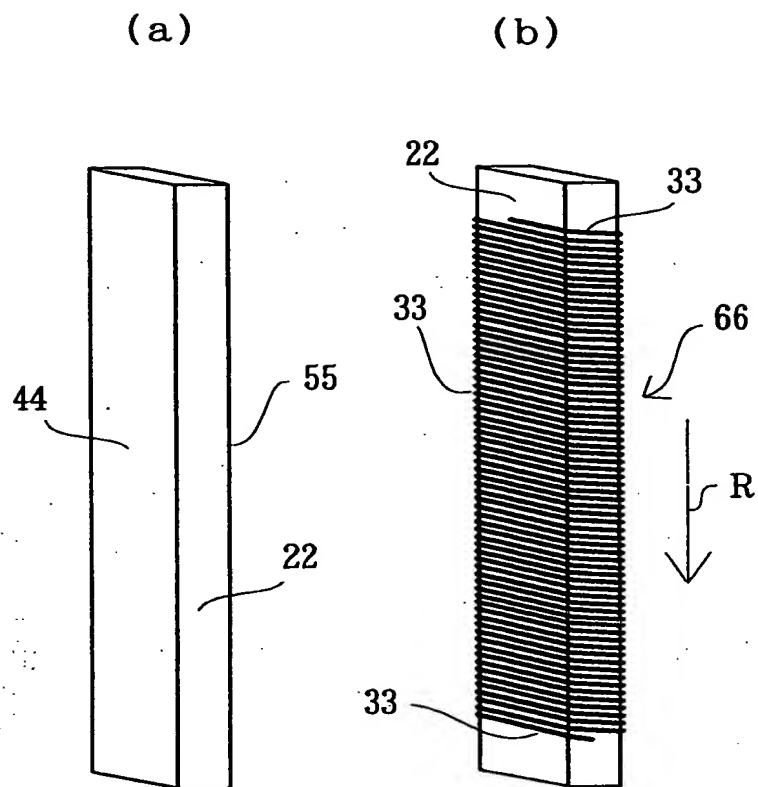
【図 2】



【図 3】

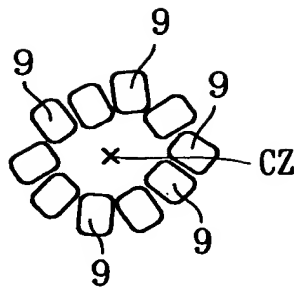


【図 4】

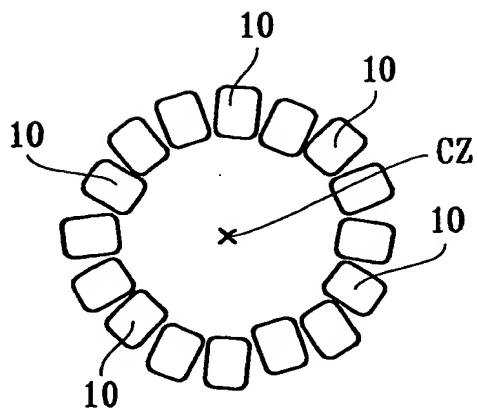


【図 5】

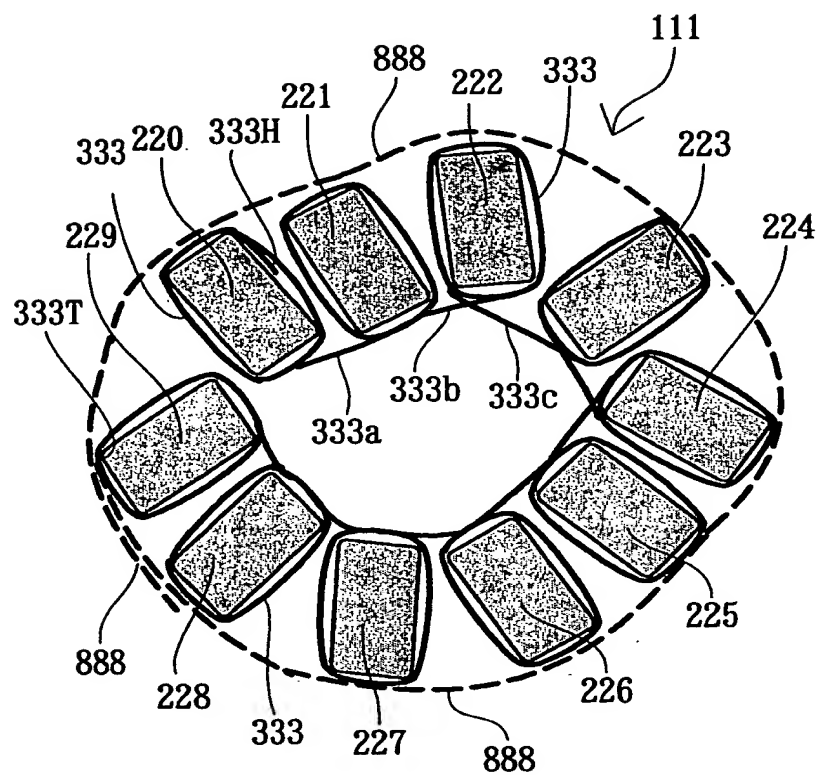
(a)



(b)



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 体調調整、特に電磁波障害による体調不具合を改善することができる
体調調整具、及び、その製造方法並びに該体調調整具の使用方法を提供する。

【解決手段】 (A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石
複数本、(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材、及び(C) 形状保持材とから
なる体調調整具であって、前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表
面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、前記線材巻き付け磁石複
数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、その
外側に形状保持材が配されている体調調整具であって、前記筒状中心点を通り該
体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた
際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体にあてる。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500456165]

1. 変更年月日 2000年 9月29日
[変更理由] 新規登録
住 所 岡山県赤磐郡赤坂町大屋39-2
氏 名 苅田 昌和